

# デジタル化とパンデミック

武蔵野大学特任教授

山内昌之

現在の私たちはデジタル化の時代に生きている。コロナ禍もデジタル化の時代に生じており、地球の文明・文化もデジタル化時代に変容を強いられる。「デジタル化時代のパンデミック」と「デジタル化時代の文化変容」の中に生きている私たちにとって、伊藤亜聖氏の『デジタル化する新興国』は未来を照射してくれる書物である。

パンデミックが否応なくデジタル化を加速し、パンデミックがデジタル化された政治・経済・文化の変容を促進させる側面についても示唆的であり、吉野作造賞を受けるとふさわしい。デジタル化時代のアジア、オーストラリア・ニュージーランドで創られる独特なデジタル文化とデジタル化の促進に日本がいかに関与するのかという問題意識もよく分かる。しかし、デジタル化とコロナ禍における個人情報の方が欧州では制限され、中国ではむしろ個人の権利を保護する方向にあるという指摘は、次の機会に丁寧な説明が欲しい。

# 中央公論

特集

## 孤独と怒りに 社会は軋む

暴走する心のメカニズム ● 中野信子×木原祐健  
 分断と貧困が進む日本 ● 湯浅 誠×田中拓道  
 深刻さ増す喫緊の課題 ● 坂本哲志・孤独対策大臣  
 アメリカのキャンセル・カルチャー ● フランシス・フクヤマ×会田弘継

### 【特集】コロナが暴いた日本医療の穴

政府・医師会に緊急提言！ ● 病院のコロナ貢献「見える化」を  
 かけつけ総合医制度で逼迫防げ ● 看護師への権限委譲が有事を救う  
 小林慶一郎／草場鉄周／森山美知子

読売・吉野作造賞 発表  
 『デジタル化する新興国』 ● 伊藤亜聖